

★このサイズを釣ればもうコマセタイに病みつき



●内房富浦沖も大ダイの実績が高いコマセダイ釣り場だ

▲富浦沖には横瀬や象背根といった名ポイントがある



▲しっかりコマセを振り出してタナに合わせてよう



▲例年なら大型連休前後に本格化する
 ◀乗っ込みらしい魚体が多かった
 ▶当日は長めのハリスが有利だった
 ▼ワラサも交じってくる



▶コマセカゴはオモリ80号。テーパー仕掛けを使う人が多い

大ダイのビッグチャンス!! 内房富浦沖も乗っ込み本番へ

内房勝山港出船 撮影●粕川 晃

▲55~60メートル付近にマダイの反応



▲そろそろイサキもいい時期



エサの取られ具合は要チェック

コマセダイ釣りにおいて厄介なエサ取りだが、オキアミの取られ具合からチャンスを見極められることもある。写真のように半分ですパッと切られていたらマダイの可能性大だ。



▲当日最大は3キロ



各地で乗っ込み本番の様相を呈しているコマセダイだが、ここ内房勝山港出船で狙う富浦沖もいよいよ本番の気配が漂い始めた。
 取材した4月中旬のポイント水深は65メートル前後で、タナは海面から45メートル。釣果は最大3キロを含みトップ4枚だったが、前日には7.5キロの大ダイも上がっている。
 このところは13~15メートルの長ハリスで食っているというが、乗っ込みが本格化すればタイも上すり短いハリスでもパンパン食ってくるというから楽しみだ。
 (詳細は54ページ参照)

★大ダイがヒットしたらドラグを効かせてゆっくり巻き上げよう



●内房勝山港・新盛丸 船長 正悟船長(右)と克芳船長